

1番

決あきの

秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ

天智天皇

2番

決はるす

春すぎて 夏来にけらし 白妙の

持統天皇

3番

決あし

あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の

柿本人麻呂

4番

決たご

田子の浦に うち出でて見れば  
白妙の

山部赤人

5番

決おく

奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の

猿丸大夫

6番

決かさ

かささぎの 渡せる橋に おく霜の

7番

決あまの

天の原 ふりさけ見れば 春日なる

安倍仲磨

8番

決わがい

わが庵は 都のたつみ しかぞすむ

喜撰法師

9番

決はなの

花の色は うつりにけりな  
いたづらに

小野小町

10番

決これ

これやこの 行くも帰るも 別れては

蟬丸

11番

決わたのはらや

わたの原 八十島かけて  
漕ぎ出でぬと

参議篁

12番

決あまつ

天つ風 雲の通ひ路 吹きとぢよ

僧正遍昭

13番

決つく

筑波嶺の峰より落つる みなの川

陽成院

決みち

14番

陸奥のしのぶもちずり 誰ゆゑに

河原左大臣

15番

決きみがためは

君がため 春の野に出て 若菜つむ

光孝天皇

決たち

16番

立ち別れ いなばの山の峰に生ふる

中納言行平

17番

決ちは

ちはやぶる 神代もきかず 竜田川

在原業平朝臣

決す

18番

住の江の 岸に寄る波 よるさへや

藤原敏行朝臣

19番

決なにはが

難波潟 短き芦の ふしの間も

伊勢

決わび

20番

わびぬれば 今はた同じ 難波なる

元良親王

21番

決いまこ

今来むといひしばかりに 長月の

素性法師

22番

決ふ

吹くからに 秋の草木の しをるれば

23番

決つき

月見れば 千々にものこそ 悲しけれ

大江千里

24番

決この

このたびは 幣も取りあへず 手向山

菅家

25番

決なにし

名にし負はば 逢坂山の さねかづら

三条右大臣

決をぐ

26番

小倉山 峰の紅葉葉 心あらば

貞信公

27番

決みかの

みかの原 わきて流るる いづみ川

中納言兼輔

決やまざ

28番

山里は 冬ぞさびしさ まさりける

源宗于朝臣

29番

決こころあ

心あてに 折らばや折らむ 初霜の

凡河内躬恒

30番

決ありあ

有明の つれなく見えし 別れより

31番

決あさぼらけあ

朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに

坂上是則

32番

決やまが

山川に 風のかけたる しがらみは

春道列樹

33番

決ひさ

ひさかたの 光のどけき 春の日に

紀友則

決たれ

34番

誰をかも 知る人にせむ 高砂の

藤原興風

35番

決ひとは

人はいさ 心も知らず ふるさとは

紀貫之

決なつの

36番

夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを

清原深養父

37番

決しら

白露に 風の吹きしく 秋の野は

文屋朝康

38番

決わすら

忘らるる 身をば思はず 誓ひてし

右近

39番

決あさぢ

浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど

参議等

40番

決しの

しのぶれど 色に出でにけり  
わが恋は

平兼盛

41番

決こひ

恋すてふ わが名はまだき  
立ちにけり

壬生忠見

43番

決あひ

逢ひ見ての のちの心に くらぶれば

権中納言敦忠

42番

決ちぎりき

契りきな かたみに袖を しほりつつ

清原元輔

44番

決あふ

逢ふことの 絶えてしなくは  
なかなかに

中納言朝忠

45番

決あはれ

あはれとも いふべき人は 思ほえで

謙徳公

決ゆら

46番

由良の門を 渡る舟人 かぢを絶え

曾禰好忠

47番

決やへ

八重むぐら しげれる宿の  
さびしきに

惠慶法師

決かぜを

48番

風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ

源重之

49番

決みかき

御垣守 衛士のたく火の 夜は燃え

大中臣能宣朝臣

50番

決きみがためを

君がため 惜しからざりし 命さへ

51番

決かく

かくとだに えやはいぶきの  
さしも草

藤原実方朝臣

52番

決あけ

明けぬれば 暮るるものとは  
知りながら

藤原道信朝臣

53番

決なげき

嘆きつつひとり寝る夜の  
明くる間は

右大将道綱母

54番

決わすれ

忘れじの 行末までは かたければ

儀同三司母

55番

決たき

滝の音は 絶えて久しくなりぬれど

大納言公任

56番

決あらざ

あらざらむ この世のほかの  
思ひ出に

和泉式部

57番

決め

めぐりあひて 見しやそれとも  
分かぬ間に

紫式部

58番

決ありま

有馬山 猪名の笠原 風吹けば

59番

決やす

やすらはで 寝なましものを  
さ夜ふけて

赤染衛門

60番

決おほえ

大江山 いく野の道の 遠ければ

小式部内侍

61番

決いに

いにしへの 奈良の都の 八重桜

伊勢大輔

62番

決よを

夜をこめて 鳥のそらねは  
はかるとも

清少納言

63番

決いまは

今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを

左京大夫道雅

64番

決あさぼらけう

朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに

権中納言定頼

65番

決うら

恨みわび ほさぬ袖だに あるものを

相模

66番

決もろ

もろともに あはれと思へ 山桜

大僧正行尊

67番

決はるの

春の夜の 夢ばかりなる 手枕に

周防内侍

68番

決こころに

心にも あらでうき世に ながらへば

三条院

69番

決あらし

嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は

能因法師

70番

決さ

さびしさに 宿を立ち出でて  
ながむれば

良運法師

71番

決ゆ

夕されば 門田の稻葉 おとづれて

大納言経信

72番

決おと

音にきく たかしの浜の あだ波は

祐子内親王家紀伊

73番

決たか

高砂の 尾の上の桜 咲きにけり

権中納言匡房

決うか

74番

憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ

源俊頼朝臣

75番

決ちぎりお

契りおきし させもが露を 命にて

藤原基俊

決わたのはらこ

わたの原 潟ぎ出でて見れば 久方の

法性寺入道前関白太政大臣

77番

決せ

瀬を早み 岩にせかるる 滝川の

崇徳院

決あはじ

78番

淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に

源兼昌

79番

決あきか

秋風に たなびく雲の 絶え間より

左京大夫顕輔

決ながか

80番

長からむ 心も知らず 黒髪の

待賢門院堀河

81番

決ほと

ほととぎす 鳴きつる方を  
ながむれば

後徳大寺左大臣

82番

決おも

思ひわび さても命は あるものを

道因法師

83番

決よのなかよ

世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る

皇太后宮大夫俊成

84番

決ながら

ながらへば またこのごろや  
しのばれむ

藤原清輔朝臣

85番

決よも

夜もすがら もの思ふころは  
明けやらで

俊恵法師

86番

決なげけ

嘆けとて 月やはものを 思はする

西行法師

87番

決む

村雨の 露もまだひぬ まきの葉に

寂蓮法師

88番

決なにはえ

難波江の 芦のかりねの ひとよゆゑ

皇嘉門院別当

89番

決たま

玉の緒よ 絶えなば絶えね  
ながらへば

式子内親王

90番

決みせ

見せばやな 雄島のあまの 袖だにも

殷富門院大輔

91番

決きり

きりぎりす 鳴くや霜夜の  
さむしろに

後京極摂政前太政大臣

92番

決わがそ

わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の

二条院讃岐

93番

決よのなかは

世の中は 常にもがもな 渚こぐ

鎌倉右大臣

94番

決みよ

み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて

参議雅経

95番

決おほけ

おほけなく うき世の民に  
おほふかな

前大僧正慈円

96番

決はなさ

花さそふ 嵐の庭の 雪ならで

入道前太政大臣

97番

決こぬ

来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに

権中納言定家

決かぜそ

98番

風そよぐなら的小川の 夕暮れは

従二位家隆

99番

決ひとつ

人もをし 人も恨めし あぢきなく

後鳥羽院

決もも

100番

百敷や 古き軒端の しのぶにも

順徳院